

近江学研究所について

近江学研究所の理念

県内唯一の芸術大学として「芸術による社会への貢献」を教育の理念とする成安造形大学が主唱する「近江学」は、近江という地域が持つ固有の風土を改めて深く検証する学問です。成安造形大学附属近江学研究所は、2008年4月に設立しました。近江固有の文化・風土が内包する「豊かさ」を深く掘り下げ、21世紀の社会に活かせる普遍的な価値観を見出し、そして芸術の持つ創造精神と結びつけ、新たな可能性を探索します。

研究活動紹介

研究所の役割である、研究・教育・地域貢献の3つの柱を具体的に実践し推進しています。

- ◎調査、研究
- ◎研究成果のデータベース構築
- ◎公開講座の開催
- ◎地域とつながる学内基礎教育プログラムの充実
- ◎生涯学習システムの構築
- ◎共同研究による地域貢献
- ◎文化誌「近江学」の発行
- ◎研究紀要の発行
- ◎近江学研究所WEBサイトの運営
- ◎県内文化施設とのネットワークの構築
- ◎会員制「近江学フォーラム」の運営

2018年度 役職者・研究員(順不同)

顧問：木村至宏〔成安造形大学名誉教授〕
所長：西久松吉雄〔成安造形大学名誉教授〕
副所長：加藤賢治〔成安造形大学准教授〕

参与：
石丸正運〔美術史家・財団法人林美術財団名都美術館館長〕
今森光彦〔写真家・成安造形大学客員教授〕
上原恵美〔京都橘大学名誉教授〕
大道良夫〔滋賀県経済団体連合会会長・大津商工会議所会頭〕
岸野 洋〔元公益財団法人滋賀県文化振興事業団理事長〕
武 覚超〔叡山学院教授〕

客員研究員：
高梨純次〔公益財団法人秀明文化財団参事〕
福家俊彦〔天台寺門宗総本山園城寺(三井寺)執事長〕
和田光生〔大津市歴史博物館副館長〕
大岩剛一〔建築家〕
山本晃子〔高島市教育委員会文化財課参事〕

研究員：
小嶋善通〔成安造形大学教授〕
吉村俊昭〔成安造形大学教授〕
永江弘之〔成安造形大学教授〕
真下武久〔成安造形大学准教授〕
石川 亮〔成安造形大学准教授〕
大原 歩〔成安造形大学助教〕
※役職等は、2018年3月1日現在のものです。

附属近江学研究所 所長
西久松吉雄



附属近江学研究所
ロゴマーク



「近江の里・川・祭 研究プロジェクト」 2018-2020年度

研究プロジェクトとして「里・川・祭」をテーマとし、研究成果を文化誌「近江学」第11・12・13号・研究紀要にて掲載・発表します。「近江の自然と人の暮らしに生きるもの」を、多角的に検証します。ご期待ください。

2018年度研究テーマ | 近江の里



棚田(大津市御木)

2019年度研究テーマ | 近江の川



安曇川(高島市)

2020年度研究テーマ | 近江の祭



伊庭坂下し祭(東近江市)

※写真はイメージです。

特集2
近江学に集う

近江学に集う

2019年度「近江学フォーラム」 会員募集のご案内

テーマ：
里のいとなみ

「近江学フォーラム」は、本研究所の研究・教育活動、文化振興活動に広く一般の方にも参加していただく目的で、2009年4月に設立しました。1年を通して、1つのテーマを多角的に深く学びます。滋賀県(近江)の持つ豊かな自然と歴史、文化に対し、興味・関心のある方、ご自身の持っている知識や見聞を深めたい、広げたいとお考えの方は、是非会員にお申込ください。

会員特典1

会員限定講座の受講

近江の歴史、民俗、美術、宗教などに精通する講師による講座です。
近江学フォーラム会員のみ受講できます。年間5回、講座時間 10:50-12:20(10:20受付開始)

6月29日[土] 近江と美濃を結ぶ里—奥伊吹・甲津原

講師：
高橋順之 氏 | 米原市教育委員会歴史文化財保護課主幹・伊吹山文化資料館学芸員

〔講演内容〕
国の重要な文化的景観「東草野の山村景観」を構成する奥伊吹・甲津原集落は、標高520メートルの高地にあり、西日本屈指の豪雪地として知られている。かつて、3本の峠道で湖北と美濃を結ぶ拠点であったことから、顕教踊りや廻り仏、能面などの古い文化や文化財が入り込み、里人によって伝承されてきた。また、戦に敗れ逃れてきた武将たちをあたたく置った土地でもある。

〔講師プロフィール〕
1962年 滋賀県生まれ。奈良大学文学部史学科卒業。伊吹町教育委員会を経て現職。滋賀県立大学非常勤講師。専門は日本考古学。主な著作として『伊吹山を知るやさしい山とひと学の本』(監修・共著)、『伊吹山物語—神の山と歩む上野人—』(編集・共著)など。



冬の甲津原



能面「三番叟」

7月13日[土] 衣生活用具からみる里の暮らし

講師：
須藤護 氏 | 民俗学者・龍谷大学名誉教授・龍谷大学里山学研究センターフェロー

〔講演内容〕
大津市田上の牧地区に郷土史料館が設立されたのは昭和43(1968)年のことでした。当館の収蔵品のうち最も充実しているのが衣生活に関わる資料です。現在80歳から90歳くらいのおばあさんが、田上にお嫁に来るときに持って来られた日常着、作業着、訪問着その他美しい小物類がたくさん保管されています。この豊富な衣生活用具を通して、当時の田上の女性たちがいかに賢い暮らしを築いてきたか、その暮らし方を探ってみたいと思います。

〔講師プロフィール〕
1945年 千葉県生まれ。日本観光文化研究所(近畿日本ツーリスト)、大学共同利用機関放送教育開発センター教員、龍谷大学国際文化学部教授を経て現職。主な著書として『木の文化の形成 日本の山野利用と木器の文化』(未来社)などがある。2010年今和次郎賞受賞。



田上郷土史料館 収蔵民具



田上郷土史料館 収蔵民具



左：木造地藏菩薩立像 櫛野寺
重要文化財
右：木造薬師如来立像 阿弥陀寺
(甲賀市甲賀町) 滋賀県指定文化財



勝海舟が“本気の人”と評した近江商人
塚本定次の在所五箇荘川並集落



渡岸寺にある井上靖文学碑
小説『星と祭』を記念して建てられた



律院(大津市坂本)

9月21日[土]

甲賀の神仏 —櫛野寺を中心として—

講師：高梨純次 氏

日本美術史専攻・
公益財団法人秀明文化財団参事

11月23日[土]

風景から識る近江 —文学作品を通して—

講師：西本柳枝 氏

文筆業(日本ペンクラブ・日本詩人クラブ・
観光ジャーナリスト会議等々 会員)旅や観光に
関した記事、随筆を主に執筆。

12月14日[土]

里坊 律院の庭園と 西教寺本堂大壁画

講師：加藤賢治

本学准教授・近江学研究所副所長

ゲスト：木村至宏

本学名誉教授・近江学研究所顧問

【講演内容】

甲賀の平安彫刻について、考えてゆきます。甲賀市は、多くの文化財が伝えられている滋賀県の中で、本山寺院が多い大津市に次いで、二番目の数量を誇っています。特に、櫛野寺や阿弥陀寺(甲賀市櫛野)には平安古像が集中して伝えられています。今回は、この地の神像や仏像について、近年の研究成果を踏まえながら、見学されるに際しての、見どころなどについてお話しいたします。

【講師プロフィール】

1953年 京都市生まれ。同志社大学大学院文学研究科博士前期課程修了。滋賀県立琵琶湖文化館から滋賀県立近代美術館に勤務、学芸課長をつとめ、現在は(公財)秀明文化財団参事としてMIHO MUSEUMの研究・展示を担当。著書は『近江祈りと美』(写真・寿福滋、サンライズ出版)、『近江の古像』(思文閣出版)など。

【講演内容】

どの土地にもその土地なりの暮らしがあります。その土地が経験してきたことが風土となり、人々の当たり前の暮らしになっています。それは日常の中で“見なれた風景”になってしまいがちですが、ちょっとした切っ掛けが見なれた風景を新鮮なものにしてくれることがあります。文学作品はその“ちょっとした切っ掛け”の一つです。作家たちが、近江の風景から掬い取った近江の宝に気付かせてくれます。本講座では、井上靖『星と祭』、勝海舟『永川清話』をとり上げます。

【講師プロフィール】

1945年 島根県生まれ。小学校教師を経て、民放テレビで「東海自然歩道」の紹介番組を担当。紀行書の執筆、テレビ、ラジオで旅を語る。主な著書として『鳩の浮巢』、『湖の風回廊』など。日本ペンクラブ、日本詩人クラブ、日本現代詩人会、観光ジャーナリスト会議員。

【講演内容】

比叡山麓の坂本には「里坊」と呼ばれる僧坊が点在し、そこに池泉回遊式の美しい庭園を見ることができる。一方で、坂本の西教寺には本堂阿弥陀如来坐像の裏の壁面に里坊の庭園を絵画にしたような大壁画が描かれている。講座では、文化誌「近江学」11号に掲載した論考を元に、里坊の一つである律院の庭園と西教寺本堂大壁画を見比べ、その共通点を探る中で、双方の根底を流れる思想等について考えてみたい。

【講師プロフィール】

1967年 京都市生まれ。1991年立命館大学産業社会学部卒業。高等学校地歴科・中学校社会科非常勤講師を経て、2004年佛教大学大学院文学研究科仏教文化専攻修了。2011年、滋賀県立大学大学院人間文化学研究科博士後期課程単位取得退学。現在、成安造形大学准教授。

写真：永江弘之

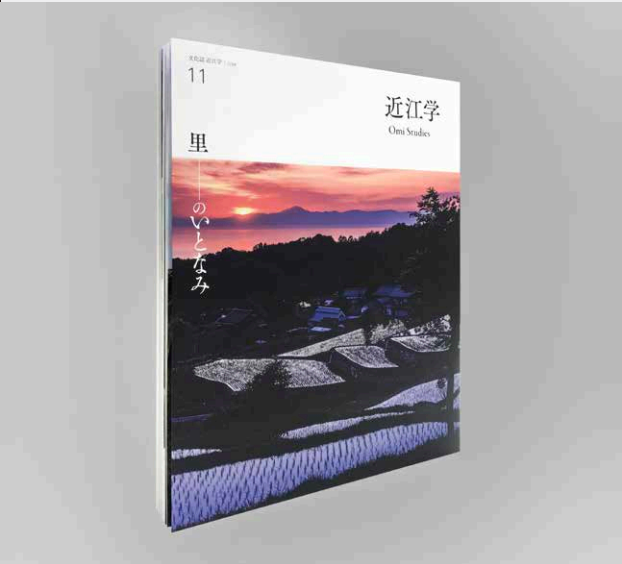


昨年度のようす(菅浦集落にて)

※都合により講座内容の変更または中止場合があります。

会員特典3

文化誌『近江学』第11号「特集—里のいとなみ」を無料進呈



発行：成安造形大学附属近江学研究所
〒520-0248滋賀県大津市仰木の里東4-3-1
発行人：西久松吉雄
編集長：小嵩普通
デザイン：塩谷啓悟 | <http://shiotanikeigo.com/>
編集：玉置慎輔
校正：岸田幸治(サンライズ出版株式会社)
カバー写真：寿福滋
印刷：宮川印刷株式会社
発売元：サンライズ出版株式会社
〒522-0004滋賀県彦根市鳥居本町655-1 | TEL: 0749-22-0627
発行部数：1,200部
定価：1,800円＋税
ISBN：978-4-88325-651-8 C1420

会員特典4

近江学研究所主催の 公開講座を無料で受講可能

要申込。連続講座・写生会(受講料各500円)を
無料で受講できます。講座内容は、P2-4をご覧ください。

会員特典6

成安造形大学附属図書館で 書籍貸出が利用できる 会員証の発行

会員特典8

成安造形大学聴講生選考料免除

成安造形大学では、一部の選択科目を一般の社会人の方々にも受講いただける「聴講生制度」を実施しています。近江学フォーラム会員の方は、受講に必要な選考料(1万円)が免除されます。
◎科目例「文化史」、「琵琶湖の民俗史」、フィールドワーク「近江学」、「東洋・日本美術史概説」、「西洋美術史」など多数。
《2019年度出願期間》前期出願期間：2月25日[月]～3月6日[水] | 後期出願期間：8月19日[月]～8月28日[水]

特集テーマは「里のいとなみ」。里山をテーマに世界で活躍する写真家今森光彦氏の写真レポートを始め、日本画家三輪晃勢が描いた坂本の里坊の大壁画と思想の考察、近江各地の里で守られる仏像と人びとの「結縁」の姿、万葉の里を訪ねる旅のエッセイ、収蔵された「民具」からその地を読み解く民俗学の論考、甲賀市信楽の「朝宮茶」「信楽焼」の職人たちへの取材など、「里のいとなみ」をテーマにした多彩な論考を収録。装丁・デザインを成安造形大学卒業生のグラフィックデザイナー塩谷啓悟さん、編集をアートディレクターとして活躍している玉置慎輔さんを迎えて、デザインリニューアルをしました。

文化誌『近江学』第11号「特集—里のいとなみ」目次

- ・「里は物語る」木村至宏(近江学研究所顧問)
- ・「里という自然」今森光彦(写真家)
- ・「里の仏像、結縁する人びと」伊東史朗(和歌山県立博物館館長、京都国立博物館名誉館員)
- ・「江濃を結ぶ里—奥伊吹・甲津原—」高橋順之(米原市教育委員会歴史文化財保護課主幹)
- ・「古歌が繋ぐ古代と現代—万葉の地に遊ぶ—」西本柳枝(文筆家)
- ・「田上郷土史料館収蔵民具からみる里の暮らし」須藤藤(龍谷大学名誉教授・同大学里山学研究センター研究フェロー)
- ・「里坊 律院の庭園と西教寺本堂大壁画」加藤賢治(近江学研究所副所長)
- ・「循環するスミカー—仰木の里山から—」大岩剛一(近江学研究所客員研究員)
- ・「里の伝説 仰木—「佐治の手」と「源満仲公」」永江弘之(近江学研究所研究員)
- ・「湖北の里 下丹生」吉村俊昭(近江学研究所研究員)
- ・「旧跡 寝物語の里」小嵩普通(近江学研究所研究員)
- ・「蒲生野の里を訪ねて」寿福滋(写真家)
- ・「近江の風景を描く—白洲正子の世界」西久松吉雄(近江学研究所所長)
- ・「朝宮の茶 茶の進化を育む土地」真下武久(近江学研究所研究員)
- ・「里の生業—受け継ぐ精神—信楽勅旨 陶瑞窯」石川亮(近江学研究所研究員)

会員特典5

近江学フォーラム会報誌 「近江通信紙」を無料進呈

年間2回発行。会員からの寄稿や
近江学研究所・大学の情報などを掲載。



会員特典7

近江学研究所発行の 紀要第8号を無料進呈

研究者の近江に関する論考・
研究調査報告などを掲載。近江文化の
発掘・再発見を目指します。(非売品)



2019年度「近江学フォーラム」入会について

年会費

入会金：無料
※年会費は途中入会の場合も同額です。

◎個人会員 | 5,000円

◎家族会員 | 3,000円

個人会員(年会費5000円)と生計を同一にする配偶者・御両親・お子様(18歳以上)の方は、「家族会員」にお申込みいただけます。
・家族会員は、「特典3 文化誌「近江学」」と、「特典7 研究紀要」の無料進呈はありません。
・送付物は、個人会員様のご住所に送付いたします。

◎学園会員 | 3,000円

(成安造形大学学生・卒業生及びその保護者、京の会、聚英会)

◎法人・団体会員 | 10,000円

会員証は無記名で2名分発行。

入会手続

1. 年会費を下記の[1][2][3]のいずれかの方法でお支払ください。

[1] 郵便振替／[2] 銀行振込／[3] 窓口支払

[1] 郵便振替

・添付のゆうちょ銀行「払込取扱票」(次頁上欄)に必要事項を記入し、2019年度(2019年4月1日-2020年3月31日)の年会費を払込みください。
(恐れ入りますが、振込み手数料は各自ご負担ください)
・振込みいただく際の「受取書」または「受領証」をもって領収書に代えさせていただきます。

※ゆうちょ銀行に口座をお持ちの方も添付のゆうちょ銀行「払込取扱票」をご使用ください。

[2] 銀行振込

銀行振込をご利用される方は、近江学研究所(077-574-2118)にご連絡ください。手続きに必要な書類を送付いたします。

[3] 窓口支払い

成安造形大学 本館棟1階 大学事務所内 近江学研究所まで

年会費をご持参ください。

受付時間 | 平日10時-16時(大学の学年暦により、休業日の場合があります。)

入会後お送りするもの

○講座申込専用ハガキ(会員限定・公開講座兼用)

○会員証

○会員のしおり

○特典刊行物(文化誌「近江学」・近江通信紙・紀要) など

お問合せ

〒520-0248 滋賀県大津市仰木の里東4-3-1

成安造形大学附属近江学研究所

Tel: 077-574-2118 | Fax: 077-574-2120

E-mail: omigaku@seian.ac.jp

対応時間 | 平日9時-17時

アクセス

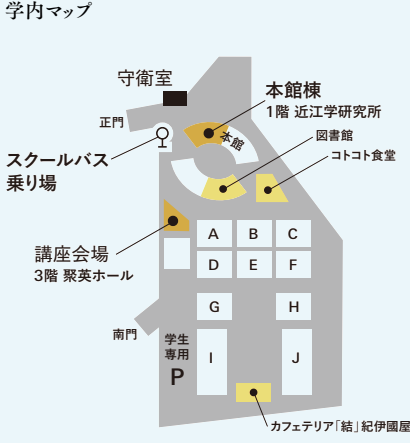
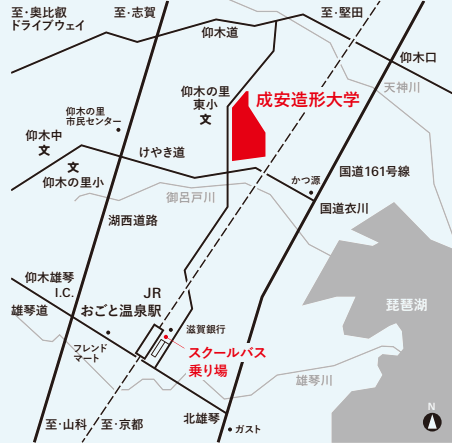
ご来場の際は、公共交通機関をご利用ください。
JR湖西線「おごと温泉」駅下車。
滋賀銀行前バス停よりスクールバス乗車3分。

◎JRご利用で、京都から20分・大阪から46分・神戸から65分の便利なアクセスです。

◎JRおごと温泉駅前からスクールバス、路線バス<94番系統>が運行しています。

◎スクールバスは1時間に2-4本程度運行しており、無料で利用いただけます。

◎路線バスをご利用いただく場合は「成安造形大学前」で下車してください。



払込取扱票	
00 大阪	
口座記号番号	
0 0 9 3 0 8 2 2 6 0 1 6	
金額	
料 金	
備考	
2019年度 近江学フォーラム入会申込書 ☒ 該当箇所にチェックください ☐ 個人会員 (5,000円) ☐ 家族会員 (3,000円) ☐ 法人会員 (10,000円) ☐ 学園会員 (3,000円) (☐ 本学学生・卒業生、及びその保護者 ☐ 京の会 ☐ 聚英会) ご記入ください 《個人・学園会員》氏名／フリガナ() 性別(男／女) () 年齢() 《家族会員》氏名／フリガナ() 性別(男／女)・続柄() 年齢() 《法人会員》法人・団体名／フリガナ() 代表者氏名／フリガナ() 代表者役職名() おところ(郵便番号 -) ※ おなまえ 様 (電話番号 - -) 裏面の注意事項をお読みください。(ゆうちょ銀行) (承認番号 大第44574号) これより下部には何も記入しないでください。	

振替払込請求書兼受領証

口座記号番号	
0 0 9 3 0 8 2 2 6 0 1 6	
加入者名	
学校法人 京都成安学園	
金額	
ご依頼人	
料 金	
備考	
おなまえ ※ 様 (消費税込み) 日 付 印 円	

この受領証は、大切に保管してください。

2019年度「近江学フォーラム」入会用 ゆうちょ銀行「払込取扱票」

※近江学フォーラム会員は、入会後に送付する「講座申込専用ハガキ」で公開講座も同時にお申込みいただけます。

[公開講座 連絡事項]

参加証について

◎参加証は、特別の場合を除き申込締切日より一週間以内に発送します。◎申込多数の場合は抽選し、当選された方にのみ通知します。ただし、締切日以降も募集人数に達していない場合に限り、先着順で参加証を発送します。

受講料について

◎2019年度近江学フォーラム会員は、会員特典として特別公開講座以外は無料です。◎本学学生・教職員は無料です。◎受講料は当日ご持参ください。

ご来場について

◎本学には公開講座用駐車場がありませんので、公共交通機関をご利用下さい。◎乳幼児をお連れの方の参加はご遠慮いただいております。ご了承ください。

その他

◎都合により講座内容を変更または中止する場合があります。◎大学広報や記録・公開などを目的とし、各講座とも写真・映像撮影をします。◎個人情報参加証の発送、本学からの各種ご案内、個人を特定しない統計情報の収集以外の目的には使用しません。

1. 希望する講座記号(ア-カ／複数可)

☐ ア 日本の食とお茶 ☐ イ 近江一食のかたち
☐ ウ 近江一挑戦のかたち ☐ エ 近江一受け継ぐかたち
☐ オ 仰木・棚田里山 写生会 ☐ カ 堅田湖族 写生会

2. 郵便番号

-

3. 住所

都道府県	市区町村

4. 氏名(カタカナ)

(カタカナ)

5. 電話番号

6. 所属

☐ 本学学生 ☐ 教職員(該当の場合は☑チェックをしてください)

(ご注意)

- ・この用紙は、機械で処理しますので、金額を記入する際は、枠内にはっきりと記入してください。また、本票を汚したり、折り曲げたりしないでください。
- ・この用紙は、ゆうちょ銀行又は郵便局の払込機能付きATMでもご利用いただけます。
- ・この払込書を、ゆうちょ銀行又は郵便局の渉外員にお預けになるときは、引換えに預り証を必ずお受け取りください。
- ・この用紙による、払込料金は、ご依頼様が負担することとなります。
- ・ご依頼様からご提出いただきました払込書に記載されたおところ、おなまえ等は、加入者様に通知されます。
- ・この受領証は、払込みの証拠となるものですから大切に保管してください。



この場所には、何も記載しないでください。

キリトリ

郵便はがき

お手数ですが
62円切手
をお貼りください

520-0248
滋賀県大津市仰木の里東4-3-1
成安造形大学
附属近江学研究所 行

近江学公式ホームページ

<http://omigaku.org/>



近江学Twitter

<https://twitter.com/omigaku>



@omigaku

近江学Instagram

https://www.instagram.com/bunkashi_omigaku/



【 】

成安造形大学

